

## II

## 資料の収集・研究成果の公開

## —博物館資源センター—

## [概要]

博物館資源センターは、資料の収集・管理と、研究成果公開の場である展示を中心とした博物館事業を所管している。これらを効率的に運営するため、資料・修復担当者および情報・知財担当者による資料担当者会議、展示担当者による展示担当者会議、ならびにくらしの植物苑運営会議をふまえ、月例の博物館資源センター会議を開催して、事業の実施に当たっている。

## 1. 資料の収集・製作・保存管理

博物館における研究とその成果公開としての展示を行うために、資料の収集と保存管理はきわめて重要な事業である。資料収集は、共同利用性・継続性・柔軟性の3点からなる基本方針に基づいて進めている。以下、2023年度の受け入れ資料の一部についてその概要を述べる。

購入資料としては、チャールズ・ウィリアム・バートレット画、渡辺庄三郎版の新版画「TAJ MAHAL 1916」1枚、旗本の大番の職務に関するマニュアル的な編集物である「本詰諸文例」1冊など、いずれも既存の館蔵資料の欠を補うものである。また昨年度に引き続き、第5・第6展示室リニューアルに向けた関連資料の収集として、台湾統治下の警察の活動実態を分かりやすく紹介した「台北州警察衛生展覧会写真帖」1帖、1870年頃の開港地横浜の鳥瞰図で、横浜に進出した外国商社や領事館の情報が盛り込まれた「新鐫横浜全図 随時改刻」1冊ほかを購入した。

受贈資料では、「新海洗漆絵コレクション」、「倉本泰信染織コレクション」の2件の大型資料群の寄贈を受けた。いずれも収集者の鑑識眼に基づく良質の資料群であり、本館所蔵資料の同ジャンルの資料との比較研究や展示活用が期待される。第5・第6展示室リニューアルに向けた資料収集では、「陸軍飛行第八連隊アルバム」ほかを収集した。

受託資料としては、幕末の外交官の実務日誌を含む「柴田剛中資料」を受け入れた。

また、昨年までと同様に「正倉院古文書」のほか、第4展示室（民俗）の展示資料である「ポスター 越中五箇山」「売薬版画」の複製品を製作した。加えて、第5・第6展示室リニューアル向けに、「錦町華族学校学習院開業式図」「ウタリグス・創刊号」ほかの複製品を製作した。

資料の保存管理については、資料保存環境検討委員会の助言の下に、引き続き文化財害虫や温湿度等の調査を進め、環境の改善や対策を検討した。また、被害の見つかった資料のメンテナンスを実施し、合わせて同資料群の資料の目通しを行った。劣化が著しい資料で、今後の研究や展示で活用が見込まれる資料として、「醍醐山上慈心院旧蔵古文書 第五巻・第六巻」、「浅葱紋縮緬地葵紋付鶏竹蔦模様繡唐幡」等の修復を実施した。このうち「鉄衝角付冑（伝七観音山古墳出土）」は、企画展示「歴博色尽くし」に出品した。

## 2. 展示活動

歴博は、歴史資料・情報の収集、整理、保存、公開という一連の機能を有する大学共同利用機関であり、特に、研究資源の収集、研究、展示を有機的に関連させる「博物館型研究統合」というスタイルで、研究の成果および情報の発信をおこなっている。展示については、総合展示および企画展示、特集展示、くらしの植物苑における特別企画、人間文化研究機構の基盤機関が連携して展示を企画・実施する連携展示などをその具体的な活動として挙げることができる。

総合展示はこれまで、研究の進展に応じたりリニューアルを実施してきた。2025年度の開室を目指す第5・第6展示室（近代・現代）のリニューアルが進行中であるほか、2022年度に発足した第2展示室（中世）リニューアル委員会が検討を続けている。

2023年度は企画展示2本、特集展示4本を実施した。

企画展示「陰陽師とは何者か—うらない、まじない、こよみをつくる—」（2023年10月3日～12月10日）は、陰陽道と暦について、その歴史とそこから生み出された文化について展示した。展示の学術的背景としては共同研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」（研究代表者：梅田千尋〔京都女子大学教授〕）2018～2020年度）をはじめとする当館の調査・研究活動の成果があった。

企画展示「歴博色尽くし」（2024年3月12日～5月6日）は、後に文化庁選定保存技術「建造物彩色」保持者となる山崎昭二郎（1927～1993）、川面稜一（1914～2005）の手による本館所蔵の彩色模型や、共同研究の過程で鉄

隕石から制作された日本刀などを展示した。

特集展示は、第1展示室の特集展示として「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」（2023年11月14日～2024年2月12日）、第3展示室の特集展示「『もの』からみる近世」として「江戸の妖怪絵巻」（2023年8月1日～9月3日）、「新出の野村コレクション」（2024年1月5日～2月4日）、第4展示室の特集展示として「四国遍路・文化遺産へのみちゆき」（2023年9月26日～2024年2月25日）を開催した。このうち、「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」については、本館と東京大学大学院人文社会系研究科・同附属北海文化研究常呂実習施設の共同主催である。

くらしの植物苑の特別企画は、「伝統の桜草」（2023年4月11日～4月30日）、「伝統の朝顔」（2023年8月9日～9月10日）、「伝統の古典菊」（2023年10月31日～11月26日）、「冬の華・サザンカ」（2023年11月28日～2024年1月28日）を開催した。

### 3. 情報発信

歴博の資料収集方針にもとづき蓄積された資料は、資料調査プロジェクト等により、研究資源として有効利用されるために必要な情報を付与し、館蔵資料データベースとして公開している。さらに、より高次の研究情報を付与した目録・図録、あるいはコレクションに特化したデータベースなどを作成、公開している。

博物館資源センター長 坂本 稔